

日本キリスト教連合会 会報



日本キリスト教連合会 常任委員

川口 薫 (カトリック中央協議会 事務局長)

創造の秩序を回復するために

聖書は「初めに、神は天地を創造された」（創世記一章1節）という言葉で始まります。「初め」という言葉には、時間的な意味だけでなく、根本とか基本といった意味が含まれているそうです。天地万物のすべての根本として神があると、聖書は主張します。

私たちの人生は、様々な人やものと関わる中で織りなされます。この世に生まれてから死ぬまで、ものや人と関わるのが、私たちの生きることの主な営みとなるでしょう。しかし、それがすべてであるとしたら、私のいのちは完成するでしょうか。もしそうだとしたら、私の存在も、この世の営みも、いわば偶然的の産物、つながりも目的も完成もないものになっってしまう。キリスト教信仰はそのようには考えません。唯一絶対の神が、すべての根本としてこの世を支え、導き、完成してくださることを信じています。そのような神があつてこそ、世界も人間存在も意味あるものとして理解できるのではないのでしょうか。

「創造物語」では、人も世界も偶然的の産物ではなく、神の意思によつてあるということが言われています。混沌と災いの象徴である闇と水に対して、光・陸という秩序がもたらされ、月や太陽には役割が与えら

れ、動植物は「それぞれ」に造られたと繰り返されています。この世のものにはそれぞれ独自の存在意義と目的があり、世界全体として調和のとれた秩序を構成しているとされています。

創造の六日目に、人はこの世のどのようなものとも区別され、神の似姿として創造され、そこに置かれた神の秩序に従つてこの世界を保ち導くように言われています。人はこの世界と正しく関わることによつて、神の創造の業に参与し、神と関わり、神の生命にあずかるように招かれているのです。これこそが創造された人間の目的であり、人間がこうして本来の目的に達する時、世界の他のものもその存在意義に到達し、神において全ての被造物が完成するのでしよう。

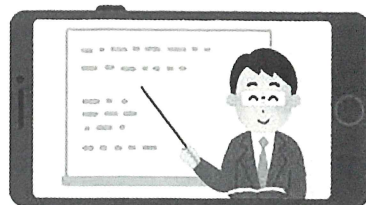
今の私たちの世界を眺めてみると、様々な混沌や無秩序が支配し、その中で多くの人が悲しい叫びをあげているのが垣間見られます。それは、私たちが神の創造の意図を見失い、世界との正しい関わりを喪失しているからだと思えてなりません。委ねられたこの世界において、人やものと正しく関わることで神の創造の意思に参与し、自分自身の存在意義を発揮していきたいものです。



ZOOM

日本キリスト教連合会主催 法人事務・会計実務 秋の研修会報告

2022年10月19日／20日 オンライン開催



2年続いてZoomを用いて研修会を開催しました。箱根での開催と違って、礼拝も交わりも、楽しい食事もない研修会でしたが、全国からご参加いただいた皆さまの熱意によって、とても充実した研修会になりました。昨年のアンケートにあったご要望にお応えするため、プログラムの充実を図りました。講義時間を大幅に増やし、内容も皆さまの普段のお働きに益するだけでなく、いま注目されているテーマにも触れていただきました

櫻井圀郎先生は、日本キリスト教連合会常任委員会の法務顧問として、教会を取り巻く様々な課題について多くのアドバイスをくださっています。

今回は午前に、私たちが日常行っている宗教法人事務をどのように行っていくか、その適切な運営についての基本的な理解から扱っていただきました。まずそれぞれの法人規則を確認すること、備え付け書類を正しく管理すること、責任役員会や総会などの会議についての正しい理解を持つこと、宗教活動としての業務と収益事業の違いを確認すること、その中で聖俗の分離を徹底すること、こうした内容をパワーポイントを用いて具体的に解説していただきました。こうして改めて指摘されると、あいまいな

扱いや処理が見えてきます。初心に返って「適切な展開」に立ち戻らなければと思われました。

午後は旧統一協会問題によって俄然注目を浴びている宗教法人の社会的な位置づけに触れながら、宗教法人の法的な原理について学びました。特に宗教活動の主体となる宗教団体と、いわゆる宗教法人との違いについて理解を深めることができました。宗教法人は世俗の事務という専らその団体の持つ財産管理に特化した制度であること、それによって信教の自由を守ろうとする制度であることがよく分かりました。解散命令の決定が現実味を帯びて来る中で、まず私たちが正しい理解を持つことがいまは非常に大切だと感じました。多岐にわたる実務的な学びができたことに心から感謝しています。



法人事務クラス

講師 櫻井圀郎先生（常任委員会法務顧問）

10月19日（水） 午前／午後



旗 No.813 「法と神学」のミニストリーズ
東京都中央区日本橋人形町1-17-7 ナンヤビル602
<https://law396.com> (ローさくらフットコム)

宗教法人事務の適切な展開

感染症の蔓延、自然災害の頻発、戦争の危機の中で

2022年10月19日／オンライン
日本キリスト教連合会／法人事務実務研修会
© Kunio Sakurai, 2022

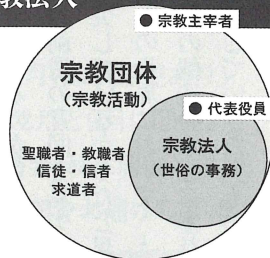
III 宗教団体と宗教法人

● 宗教主宰者

宗教団体は、宗教法人になっても、宗教法人に融合するのではなく、宗教活動の主体として存続。

宗教団体の目的は、宗教活動。
宗教活動＝宣教＋礼拝＋教育。

宗教法人は、宗教活動を行うのではなく、宗教活動を達成するための財務その他の業務を担当。



VI 聖俗分離を徹底する

- ・ 1 宗教団体と宗教法人
 - ・ (1) 宗教団体 = 宗教活動
 - ・ (2) 宗教法人 = 財務管理
- ・ 2 礼拝の献金
 - ・ (1) 献金
 - ・ ① 信徒が神に献げる行為 = 宗教活動 = 信教の自由
 - ・ ② 献げた献金の献金箱・献金袋 = 神の領域 = 聖域
 - ・ (2) 金銭
 - ・ ① 献金を集計した金銭 = 財務の担当 = 俗域



会計実務クラス

講師 長岡淳三先生 (参与)、正 先生

10月20日(木) 午前/午後

会計事務 会計基本コース



1. 簿記の概念
2. 宗教法人の財務書類
3. キリスト教会の決算書様式について
4. 決算書の作成について(練習問題)

免 税 事 業 者 のみなさまへ

令和5年10月1日から

インボイス制度が始まります!

現在免税事業者の方も、ご自身の事業実態に合わせて、インボイス発行事業者の登録を受けるかをご検討ください

～ A社さんのケース ～

ぬいぐるみ製造業 (免税事業者) A社さん、インボイス制度のこと検討してます?
お互いに関係があるみたいなんですよー

インボイス制度ですか・・・?

町の雑貨屋 (課税事業者) B社

インボイス制度 (連絡請求書等保存方式) とは・・・

- ▶ 買手は、仕入税額控除の適用のために、原則として売手から交付を受けた**インボイス (連絡請求書) を保存する必要があります**
- ▶ 売手は、インボイスを交付するためには、事前にインボイス発行事業者 (連絡請求書発行事業者) の登録を受ける必要があり、登録を受けると、**課税事業者として消費税の申告が必要**となります

売 手 (インボイス発行事業者) → 買 手 (課税事業者)

会計のクラスは税理士の長岡淳三先生、長岡正先生が担当されました。研修会の参加者の多くは普段から経理に携わっておられると思います。今回は午前に、教会や教団の事務を担当して実際に行わなければならぬポイントを抑えるところから始まりました。特に宗教法人は所轄庁への提出書類がありますので、そのことも留意しなければなりません。簿記の習熟度によって違いはありますが、税理士の先生から手ほどきを受けると納得した気持ちになるのが不思議です。クラスの後半は練習問題に取り組みました。貸借対照表、損益計算書、収支計算書それぞれの原理や役割についても教えていただきました。長岡先生も策定委員の一人であった「キリ

スト教会会計基準」は日本キリスト教連合会のホームページからダウンロードすることができます。基準的な書式もエクセルファイルで提供されています。午後の時間は、最近話題となっているインボイス制度について解説していただきました。制度名だけが一人歩きしている感じがしましたが、わかりやすい説明をいただきある程度理解できたように思います。ただ教会がインボイスの発行者になる可能性は少ないですし、その場合不利益があるのか、実際に始まってみないとわからない点もありました。それぞれのクラスの終わりに質疑応答の時間を設けました。事前の質問、チャットの質問と盛り上がりを見せ、参加者の熱意を感じることができました。

参加された皆さまの声 (アンケートから)

▶ 宗教法人の本質的なことをお聞きでき、理解を持つことができました。知らないことを学ぶことができ感謝です。▶ とても良い学びと、指摘を受けました。教会運営に生かしていきます。▶ 今回のインボイス制度のように、法改正等あった際には、それについての解説講義をしていただけると有難いです。▶ 今年の旧統一教会の話題など、時宜に合った内容を選んで頂くと毎年受講することにより意義が深まると感じました。▶ 初めて参加させていただき

ました。できれば講義内容が申し込みの段階でもう少し詳しく示していただけたらと思いました。▶ 法人事務は範囲が広く内容も深いので、もっと時間をとっていただけたらと思いました。▶ どちらかと言えば、一般論的な内容より実践的な内容を増やしてほしいと思いました。▶ Zoom 会議は出かけなくていいのはありがたいのですが、やはり交流ができないのが残念だと思いました。▶ 宗教法人の本質的なことをお聞きでき、理解を持つことができました。



日本キリスト教連合会

News



日本キリスト教連合会としての取り組み

多くの懸念材料のある中で、信教の自由と平和を守るため、何よりも主の栄光が現されるため、活動します。

21世紀がこんなにもたいへんな時代になるとは、想像もできませんでした。被造物のすべてが共にうめき、苦しんでいるのを日々目の当たりにしています。現代にあって、平和を実現する教会となるために、互いに心を合わせ、祈りを合わせたいと思います。

日本キリスト教連合会のホームページがリニューアルされました！

新しいホームページ、ご覧いただけましたでしょうか。https://jccc21.com から閲覧ができます。ぜひ一度お立ち寄りください。今後は会報や、さまざまなイベントのご案内

なども掲載予定です。ご期待ください。この2年間、4月開催の総会がオンラインになってしまって、対面でお目にかかる機会がありません。その欠けを補えれば幸いです。

編集後記

今回は秋の研修会の特集号です。コロナのために箱根での開催が困難になり、どうなることかと思っていましたが、オンライン開催になりかえって遠方からご参加いただけるようになって

うれしくもあり、直接お目にかかれず残念でもあり、複雑な気持ちです。何はともあれ充実した研修会を持つことができ、ご奉仕いただいた講師の先生方にはただただ感謝でした。またご参加いただいた皆さまにも感謝です。(矢木良雄)

●日本キリスト教連合会役員 (2022年度)

委員長 土屋 潔 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)
副委員長 本田勝宏 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)
常任委員 中村幸嗣 (日本バプテスト連盟)
道家紀一 (日本基督教団)
滝田浩之 (日本福音ルーテル教会)
矢萩新一 (日本聖公会)
江原慶亮 (日本同盟基督教団)
川口 薫 (カトリック中央協議会)
矢木良雄 (イムマヌエル綜合伝道団)

*日本キリスト教連合会へのお問い合わせは
170-0003
東京都豊島区駒込3-15-20 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団内「日本キリスト教連合会」へ。

▶日本キリスト教連合会の主な活動

- ・年6回の常任委員会
4月、5月、7月、9月、11月、2月(変更あり)
- ・年2回の定例会(例年は2月と9月に開催)
- ・法人事務・会計実務研修会(秋に開催します)
- ・「会報」を随時発行し、情報をお届けします

